

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業 専門課程	コンピュータ科	夜・通信	9 210	7 160	
	みらい情報科	夜・通信	24 360	13 320	
	ゲーム クリエイト科	夜・通信	18 510	10 240	
	建築科	夜・通信	29 570	7 160	
	CADデザイン科	夜・通信	9 240	7 160	
商業実務 専門課程	医療事務科	夜・通信	20 540	7 160	
	デジタル経営学科	夜・通信	17 360	13 320	
教育・社会福祉 専門課程	こども保育科	夜・通信	12 305	10 240	
(備考) 上段：改正後の単位数（1年生） 下段：改正前の単位時間数（2～4年生） デジタル経営学科は、完成年度を迎えていないため4年生が在籍していない。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

静岡産業技術専門学校 ホームページ https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/05_実務経験のある教員による授業科目.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ (<https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/governance/>) にて「役員名簿」を公開

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業代表取締役社長	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業監査役	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	金融機関顧問	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	経済研究機関専務理事	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業取締役	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業常務取締役	令和8年6月23日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに従い作成されたカリキュラム上の各科目が達成すべき科目のねらいを実現するために、毎年シラバス作成ガイドラインに従い、授業計画を作成している。 授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について 10月～ 次年度授業計画策定 12月～ 教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布・説明 1月～ 授業計画(シラバス)回収・チェック 2月～ 授業計画(シラバス)見直し・修正 3月～ 授業計画(シラバス)公表	
授業計画書の公表方法	静岡産業技術専門学校 ホームページ ○コンピュータ科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_c1.pdf 2年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_c2.pdf ○みらい情報科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_j1.pdf 2・3年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_j2_3.pdf 4年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_j4.pdf ○ゲームクリエイト科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_a1.pdf 2・3年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_a2_3.pdf ○建築科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_d1.pdf 2年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_d2.pdf

	○CADデザイン科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_p1.pdf 2年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_p2.pdf ○医療事務科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_m1.pdf 2年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_m2.pdf ○デジタル経営学科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_k1.pdf 2・3年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_k2_3.pdf ○こども保育科 1年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_h1.pdf 2・3年生：https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/syllabus_h2_3.pdf																								
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																									
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各学科の定めるディプロマポリシー（卒業認定・高度専門士／専門士授与の方針）に掲げる資質・能力の習得状況等は、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）の「成績評価の方法」に掲げる方法に加え、学生生活上の客観的な指標、卒業対象学生に行うアンケート調査の状況、各種資格取得・制作作品の状況、志望進路状況（専門領域への就職率及び進学率等）から学修成果の達成状況进行评估する。																									
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。																									
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。 <table><tr><th>評語</th><th>素点</th><th>意味</th><th>ポイント</th></tr><tr><td>秀</td><td>90～100点</td><td>非常に高い理解度・達成度である</td><td>3</td></tr><tr><td>優</td><td>80～89点</td><td>十分に高い理解度である</td><td>3</td></tr><tr><td>良</td><td>70～79点</td><td>基本はしっかり理解している</td><td>2</td></tr><tr><td>可</td><td>60～69点</td><td>必要最低限の内容は理解している</td><td>1</td></tr><tr><td>不可</td><td>0～59点</td><td>基準に達していない</td><td>0</td></tr></table> 成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数		評語	素点	意味	ポイント	秀	90～100点	非常に高い理解度・達成度である	3	優	80～89点	十分に高い理解度である	3	良	70～79点	基本はしっかり理解している	2	可	60～69点	必要最低限の内容は理解している	1	不可	0～59点	基準に達していない	0
評語	素点	意味	ポイント																						
秀	90～100点	非常に高い理解度・達成度である	3																						
優	80～89点	十分に高い理解度である	3																						
良	70～79点	基本はしっかり理解している	2																						
可	60～69点	必要最低限の内容は理解している	1																						
不可	0～59点	基準に達していない	0																						

●改正前の評価方法

成績は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数＝ $((4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数})) \div \text{科目数}$

客観的な指標の 算出方法の公表方法	静岡産業技術専門学校 ホームページ https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/06_客観的な指標の算出方法.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。 ○目指すべき専門分野に必要な力として学科別ポリシーを定める。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	静岡産業技術専門学校 ホームページ https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/04_卒業認定に関する方針.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	静岡理工科大学グループ ホームページ https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/financial-statements-and-activity-reports/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	コンピュータ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	90 (2, 040)	62 (720)	32 (1, 320)			
			94 (2, 040)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		130 人	5 人	3 人	13 人	16 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2 年生）を表記							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業は講義、演習により構成される。講義科目は情報分野における基礎学習、演習科目は実際の技術的操作（プログラミング等）を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。 1年次 コンピュータの基礎、プログラムの基礎を学び、基本情報技術者試験の合格を目指す。 2年次 システム開発をPBL体験型授業で実施。より実践的な演習科目中心となる。
成績評価の基準・方法
（概要） ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポ

イントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80～ 89 点	十分に高い理解度である	3
良	70～ 79 点	基本はしっかり理解している	2
可	60～ 69 点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～ 59 点	基準に達していない	0

成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1)

÷履修した基準科目の総単位数

●改正前の評価方法

成績は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～ 79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～ 69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～ 59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数＝((4×優の科目数)＋(2×良の科目数)＋(1×可の科目数))÷科目数

卒業・進級の認定基準

(概要)

以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。

- 社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。
- プログラミングの基礎技術を身に付け、最新技術を活用したアプリケーションの設計・開発を行うことができる。
- データベースを構築しシステムの設計・開発を行うことができる。
- ネットワーク、セキュリティの仕組みを理解し、安全かつ利便性のあるシステムの設計・開発を行うことができる。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている
- ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49 人 (100%)	0 人 (0%)	43 人 (87.8%)	6 人 (12.2%)

(主な就職、業界等) 情報処理業界（I T・ソフトウェア開発）
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当による指導体制を構築している。 入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職 内定を目指している。
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者 17 名 C 言語プログラミング能力認定試験 2 級 24 名
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114 人	1 人	0.9%
(中途退学の主な理由) 病気・怪我		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担当（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセ ラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	みらい情報科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	154 (4, 020)	102 (2, 430)	122 (1, 890)	3		
			227 (4, 320)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		166 人	1 人	4 人	15 人	19 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2～4 年生）を表記							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) クラウドコンピューティングや I o T (Internet of Things) など、次々に新しい技術 が登場する情報系分野において、幅広い視野と質の高い情報収集力を持ち、常に新し いことにチャレンジする技術者の育成を目的とする。
成績評価の基準・方法
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと 5 段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評 価で表す。不可及 59 点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポ

イントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80～ 89 点	十分に高い理解度である	3
良	70～ 79 点	基本はしっかり理解している	2
可	60～ 69 点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～ 59 点	基準に達していない	0

成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1)

÷履修した基準科目の総単位数

●改正前の評価方法

成績は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～ 79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～ 69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～ 59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数＝((4×優の科目数)＋(2×良の科目数)＋(1×可の科目数))÷科目数

卒業・進級の認定基準

(概要)

以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。

- 社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。
- 情報処理技術者として必要な基礎学力を持ち、情報工学分野に必要な知識・技能を身につけている。
- 地域社会のニーズを満たした安全な情報システム基盤を構築し、効果の測定及び評価ができる。
- システムの考え方や論理的な思考力・判断力を持って、課題・ニーズを発見し、開発プロジェクトを円滑にマネジメントできる。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている
- ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 情報処理業界（ＩＴ・ソフトウェア開発）
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当による指導体制を構築している。 入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職 内定を目指している。
(主な学修成果（資格・検定等）) ネットワークスペシャリスト 2名 情報処理安産確保支援士 9名 応用情報技術者 18名 基本情報技術者 74名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
138 人	3 人	2.2%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担当（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセ ラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	ゲームクリエイト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	106 (3, 900)	45 (1, 920)	18 (540)	48 (1, 440)	0 (0)	0 (0)
			111 (3, 900)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		152 人	0 人	3 人	9 人	12 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2～3 年生）を表記							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業は講義、演習により構成される。講義科目は情報分野における基礎学習、演習科 目は実際の技術的操作（プログラミング・グラフィックス制作等）を基本としている。 各学年の履修概要は以下の通り。 1 年次 ゲーム制作ために必要なコンピュータの基礎、プログラムの基礎、資格 試験の対策を行う。 2 年次 2Dゲームの制作および、3Dゲームの制作に必要な各種演習を行う。

より実践的な演習科目中心となる。 3年次 ゲーム制作を繰り返し行い、ゲームプログラマ・制作者としての学びを深める。学年の最後に卒業制作を行う。			
成績評価の基準・方法			
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語(秀・優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80～89点	十分に高い理解度である	3
良	70～79点	基本はしっかり理解している	2
可	60～69点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～59点	基準に達していない	0
成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			
●改正前の評価方法 成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数＝((4×優の科目数)＋(2×良の科目数)＋(1×可の科目数))÷科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。 ○ネットワーク、ハードウェア等のIT専門知識を身につけ、システムエンジニアとして必要なプログラムの設計、開発ができる。 ○アクション、シューティング、ロールプレイング等のゲームプログラミングができる。 ○ゲーム開発を構成する企画、シナリオ、CG(モデル、UI)等の制作ができる。			
学修支援等			
(概要) ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
42 人 (100%)	0 人 (0%)	42 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 県外ゲーム制作企業 県内・県外情報処理業界（IT・ソフトウェア開発）			
（就職指導内容） 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当による指導体制を構築している。 入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職 内定を目指している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者 21 名 C 言語プログラミング能力認定試験 2 級 28 名 C 言語プログラミング能力認定試験 3 級 39 名 Java プログラミング能力認定試験 35 名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
149 人	2 人	1.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生、保護者、クラス担当（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセ ラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	必修選択 A 又は C : 93 必修選択 B : 91 (2, 070)	必修選択 A 又は C : 62 必修選択 B : 58 (930)	必修選択 A 又は C : 34 必修選択 B : 36 (1, 110)	1 (30)	
			選択 A・C : 97/選択 B : 95 (2, 070)			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人		68 人	2 人	2 人	12 人	14 人
(備考) (任意記載事項) 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2 年生）を表記						

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 本科は２級建築士の受験に必要な学習を行う学科である。一部の科目については国土交通省に対して申告を行い、認定を受けている。 授業は講義、演習により構成される。講義科目は建築・設計における基礎学習から始め、演習科目は実際の技術的操作（製図、模型製作等）を学ぶ。各学年の履修概要は以下の通り。 １年次 建築学の基礎を学ぶ。５つの基本科目（計画、設備、法規、構造、施工）を学び設計演習へと結びつける。 ２年次 １年生での学習を基礎として、さらに内容を深める。また選択Ａ（建築設計）、選択Ｂ（建築施工管理）、選択Ｃ（インテリアデザイン）を用意し、より実務に即した学びを行う。			
成績評価の基準・方法			
（概要） ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと５段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（０～１００点）による評価で表す。不可及び５９点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、５段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	９０～１００点	非常に高い理解度・達成度である	３
優	８０～８９点	十分に高い理解度である	３
良	７０～７９点	基本はしっかり理解している	２
可	６０～６９点	必要最低限の内容は理解している	１
不可	０～５９点	基準に達していない	０
成績評価指数＝（秀・優の単位数×３＋良の単位数×２＋可の単位数×１） ÷履修した基準科目の総単位数			
●改正前の評価方法 成績は、科目ごと４段階評語（優・良・可・不可）、素点（０～１００点）による評価で表す。不可及び５９点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、４段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	８０～１００点	到達目標をほぼ達成している。	４
良	７０～７９点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	２
可	６０～６９点	到達目標の最低限は満たしている。	１
不可	０～５９点	到達目標を充足していない。	０
成績評価指数＝（（４×優の科目数）＋（２×良の科目数）＋（１×可の科目数））÷科目数			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。			

○建築生産に必要な計画・法規・構造・施工などに関する基礎的知識を身につけている。 ○C A D・C Gなどコンピュータの先端技術を活用し、効率的な設計と効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ○ 建築における設計プロセスを理解し、必要となる専門知識を複合的に活用したうえで、基本的な建築図面を作成することができる。
学修支援等
(概要) ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33 人 (100%)	0 人 (0%)	33 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
地元建築業界（設計事務所、工務店、建設・建築会社等）			
(就職指導内容)			
学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等））			
建築C A D検定 2 級 12 名 1 級建築施工管理技術検定 第一次検定 11 名 2 級建築施工管理技術検定 第一次検定 14 名 宅地建物取引士 1 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	2 人	3.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更・学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
学生、保護者、クラス担当（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	C A Dデザイン	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	73 (2, 070)	23 (330)	53 (1, 740)			
			76 (2, 070)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		37 人	1 人	2 人	8 人	10 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1年生） 改正前の単位時間数（2年生）を表記							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業は、演習を中心により構成される。講義科目はコンピュータの基礎や規格・法規等を学ぶ基礎学習、演習科目は実際の技術的操作(製図、CADソフト活用等)を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。 1年次 コンピュータの基礎、機械製図の基礎、3次元CADソフトウェア操作を重点的に学ぶ。 2年次 1年次の学習を基礎として、操作技術をより高度化するための演習を行う。特に2次元/3次元設計における技術力向上の演習と確認のための検定受験を行う。学年の後半には、企業様からの設計課題による制作演習を行い、学習の集大成とする。			
成績評価の基準・方法			
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語(秀・優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80～89点	十分に高い理解度である	3
良	70～79点	基本はしっかり理解している	2
可	60～69点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～59点	基準に達していない	0
成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			
●改正前の評価方法 成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4

良	70～ 79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～ 69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～ 59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数＝((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。 ○3次元CADを使用して、自動車・家電・玩具など製品の3次元モデルデータの作成ができる。 ○3次元モデルデータを基に、3Dプリンタで試作することやシミュレーションができる。 ○力学・加工・材料などの機械工学の基礎知識を身につけている。			
学修支援等			
(概要) ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施			

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 地元機械設計企業等（自動車業界、その他機械設計業界）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 3次元CAD利用技術者試験 1級 5名 3次元CAD利用技術者試験準1級 15名 3次元CAD利用技術者試験 2級 12名 2次元CAD利用技術者試験 1級 9名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担当(学校)の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。
--

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療事務科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	77 (2,070)	52 (1,140)	26 (840)	3 (90)		
			81 (2,070)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		26 人	0 人	1 人	6 人	7 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1年生） 改正前の単位時間数（2年生）を表記							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は医療分野における基礎学習、演習科目は実際の技術的操作(医事コンピュータ操作等)を基本としている。実習では各学生が様々な医療機関へ赴き2週間の現場実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。 1年次 医学、医療、医療事務の基礎習得に必要な学習を行う。特に診療報酬請求事務作業の対応能力育成を中心とした学習となる。他に、救命救急、栄養、介護等に関する知識についても医療機関従事者として必要となる基礎力育成の学年である。 2年次 診療報酬請求事務のさらなる学習と、電子カルテ等医療文書作成に必要なスキルや情報技術に関する基礎知識を学ぶ。現場実習(インターンシップ)も実施する。			
成績評価の基準・方法			
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語(秀・優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90~100点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80~89点	十分に高い理解度である	3
良	70~79点	基本はしっかり理解している	2
可	60~69点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0~59点	基準に達していない	0
成績評価指数=(秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			

●改正前の評価方法 成績は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数＝$((4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数})) \div \text{科目数}$			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。 ○医療従事者として必要となる基礎的な医学・薬学などの幅広い専門知識を習得し、それらを実践的に活用できる。 ○安心・信頼される医療現場での接遇を認識し、思いやりをもって行動することができる。 ○医療事務職に求められるITスキルを身につけている。			
学修支援等			
（概要） ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	24人 (96%)	1人 (4%)
（主な就職、業界等） 県内中部地域を中心とする医療機関（診療所、病院、調剤薬局等）			
（就職指導内容） 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 医師事務作業補助技能認定試験 22名 電子カルテ実技検定 24名 医療秘書技能検定試験 2級 21名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	2 人	5.3%
(中途退学の主な理由) 精神的理由、病気・怪我		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担当（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		商業実務 専門課程	デジタル経営学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	155 (4, 080)	194 (3, 090)	47 (1, 470)	3 (60)		
			244 (4, 620)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
75 人		49 人	1 人	2 人	23 人	25 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2～4 年生）を表記							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
(概要) 授業は講義、演習により構成される。講義科目は経営・ビジネスに関する知識、大学における一般教養科目、演習科目は企業や官公庁と連携した地域課題解決の考察を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。 1 年次 経営の基礎知識と幅広い一般教養を学び、経営課題解決のための基礎を習得する。 2 年次 統計学、ICTを駆使したデータ分析方法を学び、エビデンスに基づくビジネスプランの構築ができる人材を目指す。 3 年次 経営戦略の立案・提案力を磨き、作成した情報を学外に発信する。企業での研修を通して、業務の流れを理解する。 4 年次 卒業研究として地域課題解決に取り組む。海外研修を通して、グローバルな視野を持つ人材を育成する。			
成績評価の基準・方法			
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと 5 段階評語（秀・優・良・可・不可）、素点（0～100 点）による評価で表す。不可及 59 点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	非常に高い理解度・達成度である	3

優	80～ 89 点	十分に高い理解度である	3
良	70～ 79 点	基本はしっかり理解している	2
可	60～ 69 点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～ 59 点	基準に達していない	0

成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1)

÷履修した基準科目の総単位数

●改正前の評価方法

成績は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～ 79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～ 69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～ 59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数＝((4×優の科目数)＋(2×良の科目数)＋(1×可の科目数))÷科目数

卒業・進級の認定基準

(概要)

以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。

- 社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。
- 経営学の専門知識や幅広い教養を身に付けることで、現代社会の諸問題を把握し対処できる。
- 諸課題における現状把握と分析のために必要となる情報を利活用できる。
- 地域社会のさまざまな諸課題について、解決方法を提案できる。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている
- ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等)

(就職指導内容)

学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。

(主な学修成果(資格・検定等))		
日商簿記検定	3級	8名
ITパスポート		9名
MOS Word 2019 Expert		12名
(備考) (任意記載事項)		
新設学科のため、昨年度の卒業生・卒業実績はない		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	1人	3.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
学生、保護者、クラス担当(学校)の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	こども保育科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	123 (2, 940)	58 (1, 105)	59 (1, 535)	10 (300)		
			127 (2, 940)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		63 人	0 人	3 人	6 人	9 人	
(備考)（任意記載事項） 改正後の単位数（1 年生） 改正前の単位時間数（2～3 年生）を表記							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
幼稚園教諭、保育士となるための授業を行う。授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は幼児教育に必要な基礎理論等を学習、演習科目は実際の技術的操作(ピアノ、造形等)を基本としている。また幼稚園・保育園・こども園に学生が赴き、幼児・園児に対しての実務実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。	
1年次	保育者として必要な基礎理論を学ぶとともに、ボランティアや園見学、保育園への自主実習などを行う。
2年次	さらに保育者としての専門性を高めるため保育心理、社会福祉等について学ぶとともに、幼稚園への教育実習を行う。
3年次	知識、技術を広げ、教育・保育実習や施設実習で実践的なクラス運営を学ぶ。

成績評価の基準・方法			
(概要) ●改正後の評価方法 成績は、科目ごと5段階評語(秀・優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、評価をポイントに変換し、下記の計算式により成績評価指標とする。成績証明書は、5段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100点	非常に高い理解度・達成度である	3
優	80～89点	十分に高い理解度である	3
良	70～79点	基本はしっかり理解している	2
可	60～69点	必要最低限の内容は理解している	1
不可	0～59点	基準に達していない	0
成績評価指数＝(秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			
●改正前の評価方法 成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数＝((4×優の科目数)＋(2×良の科目数)＋(1×可の科目数))÷科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 以下に示す能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対してこれを認定します。 ○社会人としての倫理的責任を持ち、主体性と協調性をもって行動することができる。 ○子どもの理解に必要な知識を持って、保育者として観察・対応することができる。 ○保育者としての視野と感性を持って、子どもの興味関心を理解し成長を促すために必要な技能(指導法)を身につけている。 ○保育者としての責務を理解し、集団での円滑な運営ができるための判断力と表現力を身につけている。			
学修支援等			
(概要) ・クラス担当制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施			

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数	その他

		(自営業を含む。)	
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内中部地域を中心とする保育施設・幼稚園・こども園等			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士 20 名 幼稚園教諭二種 19 名 社会福祉主事 20 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	3 人	4.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担当(学校)の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
コンピュータ科	250,000 円	980,000 円	円	
みらい情報科	250,000 円	980,000 円	円	
ゲームクリエイト科	250,000 円	980,000 円	円	
建築科	250,000 円	980,000 円	円	
CADデザイン科	250,000 円	980,000 円	円	
医療事務科	250,000 円	980,000 円	円	
デジタル経営学科	250,000 円	980,000 円	円	
こども保育科	200,000 円	760,000 円	円	
修学支援(任意記載事項)				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生A・準特待生B・準特待生Cを認定する。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 静岡産業技術専門学校 ホームページ https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/02_20262025_自己評価.pdf		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。 ・主な評価項目 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 ・評価委員会の構成 定員：11名（企業：8名 卒業生：1名 地域・教育関係：1名 保護者：1名） ・評価結果の活用方法 評価結果について、校長（責任者）を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
(株)アイティエス	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	卒業生
鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
(株)エイエイピー	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
医療法人社団チームH S K	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	地域・教育関係
ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業委員
静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	保護者
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 静岡産業技術専門学校 ホームページ https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025_学校関係者評価.pdf		

(備考)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 第三者評価は未実施である（令和9年8月実施予定）

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H122310000223
学校名（〇〇大学 等）	静岡産業技術専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 静岡理工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		181人（ 21）人	180人（ 18）人	-人（ 87）人
内 訳	第Ⅰ区分	47人	41人	
	（うち多子世帯）	（ 12人）	（ -）	
	第Ⅱ区分	27人	36人	
	（うち多子世帯）	（ -）	（ -）	
	第Ⅲ区分	18人	17人	
	（うち多子世帯）	（ -）	（ -）	
	第Ⅳ区分（理工農）	25人	22人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	26人	23人	
	区分外（多子世帯）	38人	41人	
家計急変による 支援対象者（年間）				-人（ 0）人
合計（年間）				186人（ 87）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	-
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	0人	0人
計	-	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	-	0人	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	25人	0人	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-	-	-
計	25人	-	17人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。